



院長室だより「タマゴアレルギーとインフルエンザワクチン」	1ページ
ふれあい祭りレポート／医療安全管理室からのお知らせ⑤／今月のイチオシ図書	2ページ
糖尿病ワンポイントアドバイス「糖尿病治療薬Q&A」／「糖尿病教室11月」のお知らせ	3ページ
ニューフェイス紹介／アレルギー教室のクッキング／外来からのお知らせ／外来診察のご案内	4ページ

タマゴアレルギーとインフルエンザワクチン



インフルエンザワクチンの季節になってきました。インフルエンザワクチンを打ちたいんだけど、うちの子、食物アレルギーがあって…大丈夫なのかな？アレルギーのお子さんの保護者のかたは心配になりますよね。そこで、今月の『院長室だより』は“タマゴアレルギーとインフルエンザワクチンについて”です。



タマゴ、牛乳(ミルク)、小麦が子どもの代表的な食物アレルギー(アレルギーを引き起こすもとになる物質)です。おとなでは、ソバ、カニ、エビも危険なアレルギーです。リンゴ、メロン、キウイ、モモなどの果物を食べて口の中がしびれたように痛くなるのも食物アレルギーの仲間です。**火を通したアップルパイやピーチパイは口の中をしびれさせませんので安心して食べてください。**

タマゴアレルギーの子どもを持つ保護者の方からの相談で多いのが、インフルエンザワクチンや麻疹ワクチンの接種についてです。インフルエンザワクチンは、孵化鶏卵(ひよこが大きく育っているタマゴ)でインフルエンザウイルスを増やしたあと、インフルエンザウイルスをきれいにしてから作ります。できあがったインフルエンザワクチンにはタマゴに関連するタンパクは1ng/ml程度しか含まれません。

一般に、食べ物を食べてアナフィラキシー(食物を食べて30分以内に起こる喘鳴、意識障害、下痢などの重篤な症状)がおきるタンパクの量は1μgとされています。1μgは1ngの1,000倍の量です。幼稚園や保育園に通っている3歳以上のお子さんに接種するインフルエンザワクチンの接種量は0.5mlですから、1回のインフルエンザワクチン接種で体に入るタマゴタンパクの量は0.5ngと極めて少量です。理論

上アナフィラキシーをおこす量の2,000分の1の量です。

現在はタマゴを食べてアナフィラキシーをおこす人にはインフルエンザワクチンを接種しないことになっていますが、**火を通したタマゴが食べられる人には接種しています。**また、タマゴを食べてアトピーが悪くなる人にも接種していますが、アトピーが悪くなることはありません。なお、タマゴアレルギーの人にインフルエンザワクチンを接種した後は、**万一のことを考えて、30分間病院で過ごしてもらっています。今までに1例もアナフィラキシーを経験したことはありません。**

さて、麻疹ワクチンや麻疹風疹混合(MR)ワクチンはどうでしょう？麻疹ワクチンやMRワクチンに含まれるタマゴ由来タンパクの量は、インフルエンザワクチンに含まれる量の10分の1以下です。「0」に近いと言っていいでしょう。麻疹ワクチンやMRワクチンはタマゴを食べてアナフィラキシーを起こしたことがある子どもにも接種できるワクチンです。なお、麻疹ワクチンやMRワクチンの接種を受けた子どもにも、万一のことを考えて、30分間病院で過ごしてもらっています。

食物アレルギーで心配な方は、**三重病院アレルギー科に相談してください。**

(院長 庵原俊昭)